

# 会 議 録 要 旨

会 議 名		平成29年度 第3回藤沢市下水道運営審議会
開 催 日 時		2017年(平成29年)8月31日(木)午後2時～午後4時15分
開 催 場 所		藤沢商工会館ミナパーク502会議室
		傍聴者数 0人
出席者	会 長	神田 務
	委 員	大岩 英一・川田 兼子・木村 安代・齋藤 力良 須田 千亜希・永島 柳子・布川 晃
	事 務 局	鈴木下水道部長 下水道総務課：武井参事・齋藤主幹・近藤主幹・指旗補佐・佐藤補佐・林補佐・小川補佐 小野寺専任補佐・矢口・村田・金子・松本・吉原・野本 下水道管路課：張ヶ谷課長・坂口補佐・坪井補佐・鈴木補佐・山口 下水道施設課：竹村参事・真間主幹・一ノ瀬補佐・関野 浅井辻堂浄化センター長・加藤大清水浄化センター長
議題及び公開・非公開の別		1 「湘南ふじさわ下水道ビジョン」第2期アクションプログラムの策定について 2 その他 (1) 「下水道の日」作品コンクール応募作品の審査について (2) 8月1日発生した局地的な大雨の状況について <p style="text-align: right;">(すべて公開)</p>
非 公 開 の 理 由		
審 議 等 の 概 要		<p>《議題》</p> <p>1 「湘南ふじさわ下水道ビジョン」第2期アクションプログラムの策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回審議会の質疑にて意見があった内容について、「参考資料」を基に説明。</li> <li>第1期アクションプログラム期間の建設改良費の計画値と実績値の比較、具体的な実施内容を説明。</li> <li>・前回審議会で配付した資料の変更箇所を「補足説明資料」を基に説明。</li> <li>・「資料1」に基づき第2期アクションプログラム(素案)の事業計画と実現化方策について説明。</li> </ul> <p>【質疑】</p> <p><b>第I章～第三章</b></p> <p>①P18(6)雨水排除計画 時間降雨概ね50～60mmとあるが、地域ごとに50mm、60mmとわかれているのか、もしくは重点地区が60mmなのか。また、区域により違いがあるのであれば、市民向けに公表をしているのか。</p> <p>《回答》当初の下水道ビジョンでは、浸水被害が著しかった地域を重点対策地区として定めており、その地域はおおむね時間当たり60mmの整備水準としています。60mmの対策は、河川放流が50mmと決まっているため、残り10mmは貯留等により水準を高めていくものとしています。重点地区を着色した図面をホームページ等で公表をしておりますが、今後見せ方を検討してまいります。</p> <p>②P6雨水事業計画画面整備率が、策定時点から0.8%とあるが0.8ポイントと表現するのは、 《回答》今後表現方法を検討します。</p> <p>③P12下水道の視点3：暮らし・活力が、8つの基本目標(総合指針)のどれにも該当していないように見えるので標記の工夫を。総合指針の「3豊かな環境をつくる」と関連性があるのでは。 《回答》誤解を招かないように見せる工夫を検討します。</p> <p>④P17～今まで～下水道処理人口普及率約94%に達しました。とあるが、すでに95.5%に達しているのでは誤解を招かないか。 《回答》H23策定時のビジョンから出典しており、ビジョン策定時の長期方針となります。誤解を招かないように検討します。</p> <p>⑤近隣市の普及率と比較するとどのくらいか。 《回答》H27決算値では、横浜市99.9%、川崎市99.4%、横須賀市97.7%、茅ヶ崎市95.5%</p> <p><b>第IV章</b></p> <p>⑥P28視点1-1浸水地区に地下室を建築する際、注意を促すなど対応しているのか。 《回答》500㎡以上の開発行為の場合、庁内で浸水履歴などの情報提供を行っていますが、戸建ての立替などの場合は、個々の方との連携はとれてはいない状況であるため、浸水想定図の公表などで市民への情報開示を今後も進めてまいります。</p>

審議等の概要

- ⑦P37視点2-3バイオマス利用について、イメージしにくい例やイラストなど載せてみてはどうか。  
《回答》バイオマス利用は、費用が多くかかるとともに大幅な改造が伴うことから現在、研究の段階ですが、イメージ図など掲載の仕方を工夫してまいります。
- ⑧P42視点3-2表1②公共施設・大規模施設への雨水貯留浸透施設の設置促進を行うことによる効果は大きいことから、民間を利用した実績を表示したらどうか。総合治水の施策としてPRになる。  
《回答》特定開発事業で雨水貯留施設の設置義務があり、浸透施設の指導を行っており、貯留施設は29ヶ所で6,500トン、浸透施設は102ヶ所2,500トン(時間浸透量)の実績があります。  
また、官民連携した浸水対策として民間事業者による雨水貯留施設等の設置を促進するため、国・市が財政的な補助を行える制度を活用しております。  
今後も引き続き継続してまいります。
- ⑨P39視点3-1効果指標の汚水処理施設普及率は、浄化槽などを含めたものか。  
《回答》公共下水道によるものと、浄化槽による汚水処理をあわせたものです。  
用語の定義など解説を加え表現を検討してまいります。
- ⑩P44視点4-1効果指標の目標耐用年数内施設の確保について、効果指標の確保率70%はどのような意味か。  
《回答》標準耐用年数の2倍以上の期間で使用している施設を減らすことを目標としており、%が大きいほど新しいものが多いという指標となります。
- ⑪P44視点4-1標準耐用年数200%以内とあるが、耐用年数そのものを見直せないのか。  
《回答》今までの整備状況や維持管理を踏まえ、今後ストックマネジメントのデータベースを構築していくことで、より適正に耐用年数をどのように捉えるかが明確になると考えます。
- ⑫標準耐用年数は根拠があって決められているのでは。実際にその年数以上使用して本当に大丈夫なのか。事故につながる恐れがあるものは、予算措置し対応するのが適切では。  
《回答》状態監視保全や時間経過保全、重要度が低いものは事後保全というように、健全度(重要度とリスク)を見ながらできるだけ故障せず長く使えるよう、ストックマネジメントを取り入れ、予防保全の体制に取り組んでまいります。
- ⑬P40視点3-1表1個人浄化槽への助成、維持管理手法の検討とあるが、現状と今後どのように見直しする予定か。  
《回答》H13年より補助事業を開始(H28は15基)しているが減少しております。新規の場合は設置義務がありますので、既存のかたへの補助制度の重点化を図るよう検討してまいります。
- ⑭P48視点4-3 4.第2期アクションプログラムの目標の効果指標について、PR事業等の参加人数となっていたが、下水道フェアが開催されておらず指標を設定することが難しい点について。  
【意見】市民とのパートナーシップという意味で続けていくことが評価に影響するのか。指標としてなくてもよいのではないかと。再度事務局で検討をお願いします。

第V章

- ⑮P57事業費に対する財源構成(国庫補助金、流域負担金、分担金等)はどのようになっているのか。  
《回答》昨年度の下水道使用料見直しの際に策定した短期経営計画(3年間)を網羅した6年間の収支を試算し、効果指標の経費回収率100%を維持するという試算をしておりますので次回お示しいたします。
- ⑯近年は時間100mmを越える雨の降り方が増え、自然現象が異なってきたものに対してどのような検討を行っていくのか。  
《回答》ハードだけではない対策として、民間の方の協力や情報を早く伝える措置、防災マップなど様々なソフト対策を講じなければならないと考えております。

3 その他

- (1) 「下水道の日」作品コンクール応募作品の審査について  
次回の審議会で行う作品コンクール応募作品の審査についての説明。
- (2) 8月1日発生した局地的な大雨の状況について  
8月1日に発生した局地的な大雨による、市内の被害状況を報告。  
被害発生状況を放映したニュースで、藤沢市のマンホールから水柱が立っている映像が放映されたが、マンホールから水が噴出したものではなく貯留管からの排気によるものと説明。
- (3) 山野神雨水貯留管築造工事の進捗状況について  
来年6月の竣工に向け、地下を掘り進めていく予定。  
10月～11月に現場見学会を開催予定。